

「IIC REVIEW」40号発刊にあたって

代表取締役社長 佐藤 順一
Junichi Sato



当社の技術小誌「IIC REVIEW」は、平成元年4月の創刊から年2回の発刊を続け、今回の発刊で創刊から20年、40号を迎えることができました。

折しも、本年7月1日をもちまして、社名を「石川島検査計測株式会社」から「株式会社IHI検査計測（略称IIC）」に変更いたしました。したがって、この40号は、(株)IHI検査計測として、第1号になるわけです。本誌は、創刊20周年を機会に、当社のこれまでの技術をまとめ記録するとともに、今後の技術の方向性を社員全員で共有し、また、技術成果を関係者に伝えるために発刊されたものです。創刊当初から社員全員で本誌を作ることを目標としてきましたので、本誌は社員全員の技術活動の愚直な記録とも言えます。これまで、本誌各号に原稿をいただきましたIHI幹部をはじめとする社内外の皆様から御礼申し上げます。

IICの原点は技術であり、技術をもってIHIグループおよび社会に貢献することが求められています。石川島検査計測株式会社から株式会社IHI検査計測への社名変更は、IICがIHIグループを代表する検査計測会社としての役割を持っていることを示しています。

すなわち、IICには、IHIグループを代表する検査技術、計測技術、研究開発支援技術、検査計測装置エンジニアリング技術を保持すると

もに、それらを発展させるための技術開発が要求されているのです。これがなければ、IHIグループ以外のお客様に対しても、技術の信頼を得ることができませんし、顧客満足も得られないのです。この40号を機会に技術を手塩にかけて育て、日本一の検査計測会社を目指そうと思います。

40号は、当社の最新あるいは注力技術や製品を全般的に紹介することを目的とした特別号として企画しました。ただし、本企画においては、事業部門ごとにその技術を紹介するのではなく、技術項目に対して全社を横断してIICのもてる技術をまとめています。

現在では検査計測技術も多種多様となって来ていますので、特定の部門だけでは優れた技術を開発し、それを成長させていくことはできません。今回の企画では、IICの総合力を社内、社外に問うことを目的としましたが、検査計測において重要なことは、「何のために検査するか」、「何のために計測するか」であることが再認識できたかと思います。IIC社内においても、この20周年記念号によって、それぞれの部門が将来どうあるべきかについて、改めて考えることができたかと思います。これを土台に、5年後の50号記念号を目指して、変革を積み重ねていきたいと思しますので、関係各位の変わらぬご指導、ご鞭撻を心よりお願い申し上げます。